

感想

秋山 正子

八経ヶ岳は好きな山でしたので楽しみにしていました。そして不安定な天候で行けるかどうか心配でしたが決行となってよかったです。着いたときから雨の空気がただよっていましたが老若男女総勢12名、元気に出発できました。岩だらけの急登、息があがり、体力不足を悔いておりました。弥山小屋にたどりついたときにはもう上に行く気力はありません。そうそうにお昼ご飯を食べ、CLのこのまま下山の号令にホット胸をなでおろしました。しかし濡れた岩場は気を抜く暇もなく、声を掛け合いルートを探しながらなんとか明るいうちに下山できたので、ほんとうによかったです。CL,SLさま、ありがとうございました。お疲れ様でした。

日野 れい子

入会させてもらってから、2000m級の山に登れたらいいなと漠然と思っていました。そして、私にもそのチャンスがやってきました。

近畿最高峰、オオヤマレンゲにで会えるかも、と十分魅力的です。少雨決行の予想通り、登山途中から、合羽を着ての経験、足元の不安定さを確かめながら、なかなか登りごたえがありました。

視界はガスの中で、さすが大峰山と思いましたが、景色が見えたら、もっと疲れが軽減されるのに、というベテランさんの声にうなずきました。

天候状況により、最高峰は断念、よってオオヤマレンゲも今回は出会えずでした。

タイムを気かけながら、後続の進み具合に気を配り、天候具合で登頂断念を判断するという責任あるCLさんの役の、重要性を痛感しました。

最高峰、オオヤマレンゲという課題はまたいつか実現できたらと思います。

帰り、直帰組の車はD(ドライバー)さんの計らいで、大阪回りで、スイスイと松井山手に帰りつきました。

その時高速に入ってからすぐ、花火が上がっているのが見えました。Dさんには申し訳ないけど、しばし同乗者は花火を楽しませてもらいました。遠方まで車を提供してくださった、お三方、適確な判断で導いてくださったCLさん、SLさん 皆さん大変お世話になりました。

出会った花 バイケイソウ(同行者がアプリで調べて)

カニコウモリ(面白い名前、自宅に帰って調べた)

フウチソウ(すでに穂が上がっていた)

その他白い花をつける何種類かの木

玉置 安世

晴れ女がいっぱいいるのにおかしいなあ。山は真っ白で何にも見えない。たくさんいすぎたのかな。

田辺は猛暑だと言うのにすごく涼しい。この空気を持って帰りたい。それにしても賑やかな笑いが絶えない山行でした。

晴れてたらもっと景色がきれいでしょうね。紅葉の頃もきれいそう。もう一度行きたいと思います。みなさんありがとうございました。台湾料理最高～

平尾 繁和

梅雨明け間近、私にとって初の大峰山系への登山。御手洗溪谷から天候が変わり行く手の山の上にガスがかかり、そのうち小雨も降ってくる。予報の「曇り、日中降水量0.1mmが続く」というのはこれかと納得。行者還トンネル西の駐車場までおよそ3時間、9時過ぎについた時には山友会の3台が入って満杯に。ノリウツギの花が満開、ヒメシヤラの白い花があちこちに落ちていた。百日紅のように剥がれたオレンジ色の幹が濡れて美しい。樹林内はガスがかかり幻想的な雰囲気。ブナ、ミズナラ、コハウチワカエデ、ナナカマド、シラビソなどの樹が霧に浮かび、しっとりとした大峰の森の豊かさが実感できた。聖宝ノ宿跡で雨具を付ける。バイケイソウがたくさん咲いており、足元にはカニコウモリもあった。弥山小屋で座って昼食。林床一面のコケの緑がとても目に鮮やかだった。八経ヶ岳まではコースタイムで往復55分かかり、雨の中で帰着時間が17時30分を回りそうなので、弥山での下山判断は妥当だった。ただ登りに行き違った登山者から「オオヤマレンゲが少しだけ残っていた」と聞いていたので、見られなかったのは残念だった。2017年の例会(7/5)が雨で中止になり、いつかオオヤマレンゲを見たいと思っていた。今後、大峰山系の他の山にも足をのぼしたいし、次の機会にはぜひオオヤマレンゲを見てみたいと思う。CL、SL、参加のみなさんありがとうございました。

永井 繁一

1年ほど前に近畿の最高峰が八経ヶ岳である事を知り、必ず登ろうと思っていた。かなび6月号で『弥山・八経ヶ岳』の山行案内を見つけ申し込んだ。定員13の枠に対し、13番目の申し込みであったと後に聞き、参加できた事に感謝である。

天川村からのアクセスは、狭小で離合に手間取る国道(酷道)309号。車出し運転手の皆さんに感謝です。下界の天気は暑すぎるかと思うほどの晴天であったが、天川村に近づくと怪しげな雲行きになり、登山スタートの行者還トンネル西口駐車場につくと雨粒に出会う事に。皆さん思い思いの雨対策。

ヤママップ活動記録で見た、素晴らしい山並みやオオヤマレンゲの風景を期待して、スタート。

登り始めから奥駆道出合までは急登が続き、レインを着ていることもあり既に汗だく。続く弁天の森から聖宝ノ宿跡までは、あちこちに水たまりやグチュグチュ湿地?が現れ、行く手を阻む。

弥山までは、谷側に微妙な傾斜のある木階段の登りがしばらく続く。歩幅が合わない階段は結構きつかった。いくつかの展望ポイントがあったはずだが、何も見えないまま弥山小屋に到着。ここで昼食を取るがその間も雨足は強くなり、八経ヶ岳への登頂を断念する。

今回の山行は、霧に覆われた樹林風景だけが記憶に残った。

もう一度、八経ヶ岳からの素晴らしい景色を求めリベンジ登山をしたいと強く思う。

皆さん、ありがとうございました。

北條 都

雨の中で、カッパを着たり脱いだりの山行だったが、最近、雨天中止が多い中、雨の日の山行もいいトレーニングになったと思う。

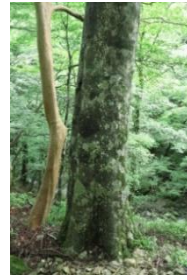
天候と時間の関係で、八経ヶ岳に行けなかったのは少し残念。また機会があれば登ってみたい。



弁天の森

聖宝ノ宿跡

コケの絨毯



弥山小屋 バイケイソウ

ブナとヒメシヤラ

